

ランチョンセミナー
スポンサーードシンポジウム

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー 1-1

10月11日(金) 12:30 ~ 14:00 第1会場(メインホール)

共催：ルンドベック

※講演言語：英語
※同時通訳あり

Chair : Stephen Stahl University of California San Diego, California, USA

LS1-1-1 Understanding Depression Treatment: from Mechanism to Clinical Profile

Stephen STAHL University of California San Diego, California, USA

LS1-1-2 Do Patients Receive the Treatment They Really Need?

Bernhard T. BAUNE University of Münster, Münster, Germany

LS1-1-3 Back to Normal?

Roger MCINTYRE University of Toronto, Toronto, Ontario, Canada

ランチョンセミナー 1-4

10月11日(金) 12:30 ~ 13:30 第4会場(409)

共催：大塚製薬株式会社

座長：古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

LS1-4-1 カルニチン欠乏を伴う肝硬変における脳機能異常
—近赤外線光トポグラフィー (NIRS) での検討から

中西 裕之 武蔵野赤十字病院消化器科

LS1-4-2 精神科におけるカルニチン欠乏とカルニチン補充療法の有用性

中村 明文 あかりクリニック / 琉球大学大学院精神病態医学講座

ランチョンセミナー 1-6

10月11日(金) 12:30 ~ 13:30 第6会場(401+402)

共催：第一三共株式会社 / ユーシービージャパン株式会社

座長：渡邊 裕喜 天久台病院精神科

LS1-6 高齢者てんかんをめぐって

吉野 相英 防衛医科大学校精神科

ランチョンセミナー 1-13

10月11日(金) 12:30 ~ 13:30 第13会場(501)

共催：大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

※講演言語：英語
※同時通訳あり

座長：中込 和幸 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

LS1-13 Cognitive Dysfunction in Bipolar Disorder

Allan H. YOUNG King's College London, London, UK

ランチョンセミナー 1-14 10月11日(金) 12:30 ~ 13:30 第14会場(パレスルームA)

共催：田辺三菱製薬株式会社

座長：内田 裕之 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

LS1-14 あらためて遅発性ジスキネジアの診断と治療を考える

坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

ランチョンセミナー 1-15 10月11日(金) 12:30 ~ 13:30 第15会場(パレスルームB)

共催：ファイザー株式会社 / 大日本住友製薬株式会社

座長：河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学教室

LS1-15 うつ病診療における治療脱落を考える

岩田 仲生 藤田医科大学医学部精神神経科学講座

ランチョンセミナー 2-1 10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第1会場(メインホール)

共催：大日本住友製薬株式会社

座長：樋口 輝彦 一般社団法人日本うつ病センター

LS2-1 統合失調症薬物治療における第3の投与経路“経皮吸収”がもたらす可能性

石郷岡 純 CNS薬理研究所

ランチョンセミナー 2-2 10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第2会場(411+412)

共催：大塚製薬株式会社

※講演言語：英語

座長：尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの診療学分野

LS2-2 Recent developments and future perspectives of long-acting injectable antipsychotics in schizophrenia

Andrea FAGIOLINI Department of Mental Health and Division of Psychiatry, University of Siena School of Medicine, Italy

ランチョンセミナー 2-3 10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第3会場(413+414)

共催：日本イーライリリー株式会社 / 塩野義製薬株式会社

座長：三村 將 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

LS2-3 うつ病治療の最適化を目指して
—その異種性をいかにして捉え、いかに治療に反映させるか—

大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科

ランチョンセミナー 2-5 10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第5会場(410)

共催：帝人ファーマ株式会社

座長：中込 和幸 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

LS2-5 うつ病へのニューロモデュレーション：rTMS

鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

ランチョンセミナー 2-6

10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第6会場(401+402)

共催：日本新薬株式会社

座長：齋藤 利和 医療法人北仁会幹メンタルクリニック /
札幌医科大学医学部神経精神医学講座

LS2-6 アルコール依存症治療の新時代：アカンプロサートの薬理を中心に
廣中 直行 帝京大学文学部心理学科

ランチョンセミナー 2-11

10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第11会場(502)

共催：共和薬品工業株式会社 / 吉富薬品株式会社

座長：近藤 毅 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

LS2-11 エビデンスと文脈から紐解く、気分障害における目標に適した薬物療法
加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座

ランチョンセミナー 2-12

10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第12会場(503)

共催：フィリップ モリス ジャパン合同会社

※講演言語：英語

※同時通訳あり

座長：井手聡一郎 東京都医学総合研究所依存性薬物プロジェクト

LS2-12 The role of Heat-Not-Burn products in Tobacco Harm Reduction: approach based on the example of IQOS® in Japan

Patrick PICALET PMI R&D, Philip Morris Products S.A., Neuchâtel, Switzerland

Serge MAEDER PMI R&D, Philip Morris Products S.A., Neuchâtel, Switzerland

ランチョンセミナー 2-13

10月12日(土) 12:30 ~ 13:30 第13会場(501)

共催：エーザイ株式会社

※講演言語：英語

座長：武田 雅俊 大阪河崎リハビリテーション大学認知予備力研究センター /
仁明会精神衛生研究所

LS2-13 Alzheimer's disease: The Approach for disease modification

小野賢二郎 昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門

座長：岩田 仲生 藤田医科大学医学部精神神経科学講座

LS2-15-1 Opportunities in the treatment and prevention of positive symptoms: improving outcomes

John M. KANE Behavioral Health Services, Northwell Health, New York, USA,
The Donald and Barbara Zucker School of Medicine, Hofstra/Northwell, New York, USA,
The Zucker Hillside Hospital, Department of Psychiatry, New York, USA

LS2-15-2 Challenges and progress in the treatment of negative, cognitive, and other symptom domains

Christoph U. CORRELL Department of Psychiatry and Molecular Medicine, Hofstra Northwell School of Medicine, New York, USA,
Center for Psychiatric Neuroscience, Feinstein Institute for Medical Research, New York, USA,
Recognition and Prevention (RAP) Program, The Zucker Hillside Hospital, Department of Psychiatry, New York, USA

Chairs : Chan Hyung Kim Vice-president, AsCNP/ Department of Psychiatry, Yonsei University College of Medicine, Korea

池田 和隆 第6回アジア神経精神薬理学会会長 / President, AsCNP / 東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野

ALS-1 Introduction of AsCNP

新田 淳美 Secretary of Central Office, AsCNP / 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)・薬物治療学研究室

ALS-2 AsCNP2021 Singapore Congress

Chay Hoon TAN President-elect, AsCNP/ National University of Singapore, Singapore

ALS-3 Award Committee

Shih-Ku LIN Vice-president, AsCNP/ Taipei City Hospital and Psychiatric Center, Taiwan

ALS-4 Education Committee

Andi J. TANRA Past-president, AsCNP/ University of Hasanuddin, Indonesia

ALS-5 AFPA & Asia alliance

Winston W. SHEN Adviser, AsCNP/ Department of Psychiatry, Taipei Medical University, Taiwan
新福 尚隆 神戸大学医学部

ALS-6 Related Academic Societies

池田 和隆 第6回アジア神経精神薬理学会会長 / President, AsCNP / 東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野

ランチョンセミナー 3-2

10月13日(日) 12:30 ~ 13:30 第2会場(411+412)

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

座長：松本 俊彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
薬物依存研究部 / 病院薬物依存症センター

LS3-2

>500本の臨床試験から見てきた抗うつ剤の真の姿：
抗うつ剤の間には有効性の差があるし、プラセボ反応率は25年来増加していないし、
SSRIは標準投与量の中でも低めで投与するのが良い

古川 壽亮 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

ランチョンセミナー 3-6

10月13日(日) 12:30 ~ 13:30 第6会場(401+402)

共催：塩野義製薬株式会社 / 武田薬品工業株式会社

座長：中川 伸 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

LS3-6

ADHDと双極性障害の合併について

寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

ランチョンセミナー 3-11

10月13日(日) 12:30 ~ 13:30 第11会場(502)

共催：持田製薬株式会社 / 田辺三菱製薬株式会社 / 吉富薬品株式会社

座長：大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科

LS3-11

不安症とうつ病との関連について ~特に社交不安症(SAD)に着目して~

朝倉 聡 北海道大学保健センター / 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

ランチョンセミナー 3-14

10月13日(日) 12:30 ~ 13:30 第14会場(パレスルームA)

共催：アステラス製薬株式会社

座長：尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

LS3-14

睡眠障害の診断と治療Up date

井上 雄一 東京医科大学睡眠学講座 / 睡眠総合ケアクリニック代々木

ランチョンセミナー 3-15

10月13日(日) 12:30 ~ 13:30 第15会場(パレスルームB)

共催：武田薬品工業株式会社ジャパンメディカルオフィス / ルンドベック・ジャパン株式会社メディカルアフェアーズ部

座長：井上 猛 東京医科大学精神医学分野

LS3-15

うつ病治療におけるアンメットニーズに対して取り組む

渡邊衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

スポンサードシンポジウム

スポンサードシンポジウム2

10月11日(金) 16:30 ~ 18:10 第2会場(411+412)

共催：ヤンセンファーマ株式会社メディカルアフェアーズ本部

統合失調症の長期予後を見据えた治療

座長：岩田 仲生 藤田医科大学医学部精神神経科学講座
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

統合失調症の治療においては急性期から慢性期まで長期にわたり、効果や副作用などを考慮した治療が重要である。統合失調症患者は一般人口より平均寿命が短いと言われているが、治療によって影響があることが報告されている。また統合失調症患者では認知機能の低下が認められ、認知機能は機能的転帰や社会機能に関連するため治療ターゲットとして注目されており、治療によって影響があることが報告されている。近年の脳画像研究のデータの蓄積により、統合失調症患者では脳構造の異常の進行が多いこともわかってきており、治療によって影響があることが報告されている。本シンポジウムでは、統合失調症患者の生命予後、認知機能、脳構造変化とそれらの治療による影響についてそれぞれの観点から、最新の知見を提示し、長期予後を見据えた治療について考える場としたい。

SS2-1 生命予後を見据えた統合失調症薬物治療

三澤 史斉 地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院

SS2-2 認知機能障害を意識した統合失調症治療

橋本 直樹 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

SS2-3 脳画像で見た統合失調症の脳構造異常の経時的変化

高橋 英彦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医学

ス
ポ
ン
サ
ー
ド
シ
ン
ポ
ジ
ウ
ム

成人期AD/HDの診断-過剰診断と過少診断-

座長：齊藤 卓弥 北海道大学大学院医学研究院児童思春期精神医学分野

注意欠如/多動症 (AD/HD) は、頻繁で激しい不注意、多動性及び衝動性の3主症状によって定義される精神疾患であり、以前は児童期の障害とされてきたが、1970年代以降、症状が成人期になっても持続することが認められてきた。

児童期のAD/HDの50%～80%は青年期まで、30%～50%は成人期に至るまで持続すると報告されている。

多動は思春期以降に目立たなくなるが、不注意は成人になっても続くことが多く、小児期には見逃されていたAD/HDが、家庭生活や仕事の場面で困難を感じるにより成人後に初めて診断される場合も少なくない。

しかし、成人期のAD/HDの特徴として、二次障害や合併症の併存が多く、AD/HDと併存障害との鑑別診断を困難にしていることに加え、幼少期からの症状の確認が困難であることなどが、適切な診断を難しくしている。

また、最近のコホート研究では、小児期にAD/HDと診断された患者のうち、成人期には寛解に至る例が多いこと、小児期にAD/HDの診断を満たさないにもかかわらず成人期においてAD/HDと診断しうるレベルの多動性・衝動性、不注意が認められる者が多いことが報告された。

そのため、小児期から成人期への連続性に新たな疑問が投げかけられ、そのような背景の中、本シンポジウムでは、成人期AD/HDの適切な診断を行うためにどのように対応するべきか、海外・国内の演者から最新の知見を紹介していただき、議論を深めたい。

SS3-1 成人期ADHDの診断－過剰診断と過小診断－

小野 和哉 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

SS3-2 成人の注意欠如・多動症の診断ツール

齊藤 卓弥 北海道大学大学院医学研究院児童思春期精神医学分野

SS3-3 Understanding ADHD in adulthood: focus on diagnosis

Josep Antoni RAMOS-QUIROGA Vall d'Hebron University Hospital, Universitat Autònoma de Barcelona, Spain

New treatment, including harm reduction program, for the patients with alcohol dependence

座長：齋藤 利和 医療法人北仁会幹メンタルクリニック /
札幌医科大学医学部神経精神医学講座

The “Basic Act on Measures against Alcohol-Related Health Harm” was enacted in December 2013. It called out to enhance the training for medical staffs and the early diagnosis and treatment for patients with alcohol related problems to resolve the big treatment gap. In these situation, The Japanese Society of Alcohol-Related Problems and The Japanese Medical Society of Alcohol and Addiciton Studies published New Diagnosis and Treatment Guidelines for Alcohol and Drug Use Disorders. This guidelined including the harm reduction concept as a treatment goal for alcohol dependence as well susbtance use disorder. Big alteration has been seen in outpatientns treatment by accepting the drinking reduction goal in Japan. Additionally, new pahrmacotherapy for alcohol dependece aiming to reduce in alcohol consmption was lanched in Japan. These changes would be expected to play supportive role for continuing treatment for patients with alcohol dependence both with an/or without of medication.

SS4-1 The new legislation on alcohol-related health harm and the new clinical guidelines for substance use disorders in Japan

樋口 進 久里浜医療センター

SS4-2 Alteration in Diagnosis, Treatment and Treatment Goal for Alcohol Dependence and Alcohol Use Disorders

齋藤 利和 医療法人北仁会幹メンタルクリニック / 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

SS4-3 The update of the pharmacological effects of nalmefene and the psychosocial support program: based on the outcomes of clinical trial of nalmefene in Japan (phase III trial)

宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

Motivation, Tobacco, Nicotine

Chairs : Edward F. DOMINO Department of Pharmacology, University of Michigan, USA
 宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

New types of tobacco products, which are said to be potentially less harmful than conventional cigarettes, e.g. heat-not-burn tobacco products and e-cigarettes, are getting popular. Toxicological evaluation of the use of these products are being vigorously examined, but research on "addictive" aspects of these products are less. This symposium would provide a good opportunity to examine various aspects of the new products, including their subjective effects.

SS5-1 Motivation Measures of Tobacco Smoking vs E-Cigarettes (Nicotine Vaping)

Edward F. DOMINO Dept. of Pharmacology, University of Michigan, USA

SS5-2 HEAT-NOT-BURN PRODUCTS : WHAT DO WE KNOW TODAY? A RISK/BENEFIT ANALYSIS

Manuel PEITSCH PMI R&D, Philip Morris Products S.A., Switzerland

SS5-3 Measuring the potential reduced risk character of tobacco heating and vaping products

Sarah COONEY Scientific R&D, British American Tobacco (Investments) Ltd, Southampton, UK

SS5-4 Vapor-infused tobacco, a low-temperature intermediate between directly-heated tobacco and e-electronic cigarettes?

Ian W. JONES JT International SA, USA

■ Discussants: 横光 健吾 (立命館大学総合心理学部)

アルコール依存症治療の新展開—飲酒量低減の実践—

座長：宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

『新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン』（2018年版）によると、アルコール依存症の治療目標として断酒が第一選択（最も確実な治療選択肢）であり、重篤な身体的・精神的合併症がある場合、重大な社会生活障害がある場合、重症な離脱症状がある場合などには断酒が推奨される。しかし、患者が断酒に応じない場合に、治療からの脱落を避けるための過渡的な選択肢として、“飲酒量低減”が治療選択肢として正式に採用された。あるいは、明確な合併症がないなどのより軽症な場合には、最初から“飲酒量低減”が治療目標になるとされている。

本シンポジウムでは、この新しい治療選択肢である“飲酒量低減”の位置づけ、断酒との使い分け、治療の実際、治療成績などについて、アルコール依存症治療を専門とする医療機関（病院、クリニックなどの）の立場から解説いただき、討議したいと思う。

SS6-1 都心の専門クリニックにおける飲酒量低減治療（減酒外来）の実践

倉持 穰 さくらの木クリニック秋葉原

SS6-2 一般精神科クリニックにおけるアルコール依存症治療のアドラー心理学（Individual Psychology）に基づく薬物療法

田中 禎 ただしメンタルクリニック

SS6-3 東北会病院での減酒治療について

奥平富貴子 東北会病院

New Developments in the Treatment of Psychotic Spectrum Disorders

座長：岩田 仲生 藤田医科大学医学部精神神経科学講座

SS8-1

**Beyond dopamine (DA) D₂ antagonism:
Targeting other neurotransmitter receptors and neurotrophins to treat the *triad*
of pathology of the schizophrenia phenotype**

Herbert Y. MELTZER Department of Psychiatry, Northwestern University Feinberg School of
Medicine, USA

SS8-2

The Role of Emerging Technology in Mental Health Care

John M. KANE The Zucker Hillside Hospital, New York, USA

ニコチン研究の最前線：新たな精神作用を求めて

Frontier of Nicotine Research: In search of novel psychopharmacological effects

オーガナイザー・座長：廣中 直行 株式会社LSIメディエンス薬理研究部 / 帝京大学文学部心理学科
座長：宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

ニコチン性アセチルコリン受容体を介する神経情報伝達は、感覚、運動、情動、認知など多岐にわたる生体機能調節に重要な役割を果たしている。近年、この受容体を構成するサブユニットの構造と機能の解析が進み、その知見が新たな疾患モデル動物の開発やヒト脳機能イメージングなどの進歩と相まって、ニコチン研究は新たな局面を迎えている。そこでは基礎研究として重要な知見が蓄積される一方、気分障害、統合失調症、パーキンソン病や認知症などの神経精神疾患に対する新たな創薬の可能性も生まれている。そこで、本シンポジウムではこの研究領域で目覚ましい成果をあげている第一線の研究者による最新の研究成果を学び、基礎・臨床両面にわたる研究の可能性について討論を深めたい。

SS9-1 紙巻たばこ及び加熱式たばこを使用した時の生理心理的効果

本井 碧 九州大学大学院芸術工学研究院デザイン人間科学部門

SS9-2 ドライビング・シミュレータを用いたニコチンの認知・運動機能に関する研究

西川 典子 国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科

SS9-3 難治性うつ病モデルマウスにおけるニコチン性アセチルコリン受容体賦活化の改善効果

森口 茂樹 東北大学大学院薬学研究科薬理学分野

SS9-4 喫煙がパーキンソン病発症率を低下させる機構への腸内細菌叢の関与の解明

大野 欽司 名古屋大学医学系研究科神経遺伝情報学

ADHDの適正診断

座長：齊藤 卓弥 北海道大学大学院医学研究院児童思春期精神医学分野
近藤 毅 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

「精神疾患の診断と統計の手引き」はDSM-IV-TRからDSM-Vへと改定され、成人期ADHDの診断に配慮される形となった。同時に多数のコホート調査の結果から、Late-onset ADHDという概念が出てきており、小児期との連続性に対して異論が唱えられている。こうした考えは、成人期での診断において小児期の症状の存在確認の必要性の軽視につながる可能性があり、過剰診断への懸念が存在する。また、内因性や心因性といった病因にかかわらず、慎重な鑑別診断が行われることなく、安易にADHDという診断がなされる可能性も存在する。本シンポジウムでは、そうした過剰診断に繋がるケースに焦点をあて、適正なADHDの診断がどうあるべきかを考えていきたいと思います。

SS10-1

小児期ADHDの適正診断

小野 和哉 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

SS10-2

「一般身体疾患による注意散漫や衝動性」の可能性を考慮する：ADHD診断上の留意点

尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

SS10-3

小児期ADHDから成人期ADHDへの繋がり

小坂 浩隆 福井大学医学部病態制御医学講座精神医学

嗜好品科学の現在と未来 — ハーム・リダクションは嗜好品科学を変えるか —

The present and the future of Shikohin (pleasure products) science: Clinical contribution of harm reduction

オーガナイザー：宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座
 座長：廣中 直行 株式会社LSIメディエンス薬理研究部 / 帝京大学文学部心理学科
 高田 孝二 帝京大学文学部心理学科

アルコール、コーヒー、たばこなどの嗜好品は、古来から人間の生活に深く密着し、気分転換、リラクゼーション、人間関係の円滑化などの役割をになってきた。一方で、その精神面への好ましい効果(報酬効果)から嗜好性、依存性に関連し、過剰な摂取は、心身に悪影響をもたらす側面もあった。加えて、近年は、IT技術の発展にともない、ギャンブル性の高いゲームが未成年にも容易に利用可能となり、また、高カフェイン飲料が問題となっている。このようななかで、嗜好品の有益な効果(ストレス緩和、リラクゼーションなど)を維持し、依存性や心身への悪影響を最小限とするために、ハームリダクションの手法が導入されるようになった。具体的には、非燃焼たばこ、低アルコール飲料、低リスクギャンブルなどである。このような手法が、嗜好品の適正使用に有効であるのか、脳科学、認知心理学などの観点から検討することが本シンポジウムの目的である。

SS11-1 たばこのハームリダクション

廣中 直行 株式会社LSIメディエンス薬理研究部 / 帝京大学文学部心理学科

SS11-2 酒類の香りの精神的効用

好田 裕史 サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社

SS11-3 1円パチンコは、ハームリダクションとして有効か

横光 健吾 立命館大学総合心理学部

SS11-4 魅惑的な甘い味の嗜好食品におけるハームリダクション：
砂糖を人工甘味料に置き換えることの効果

青山謙二郎 同志社大学心理学部